



ヒトパピローマウイルス

HPV ワクチン キャッチアップ接種

2025年3月31日までにHPVワクチンを1回以上接種した人は2025年4月以降も

残りの接種を公費で受けられることになりました。

2024年夏以降の大幅な需要増により、HPVワクチンの接種を希望しても受けられなかった人がいる状況等を踏まえ、2025年3月末までに接種を開始した人が、全3回の接種を公費で完了できるようになりました。



対象者

現高2・3年生を
含みます

・平成9年度生まれ～平成19年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日）の女性のうち、2022年4月1日～2025年3月31日までにHPVワクチンを1回以上接種した人

・平成20(2008)年度生まれの女子で、2022年4月1日～2025年3月31日までにHPVワクチンを1回以上接種した人

現高1年生

期間

・2026年3月31日まで



詳しくは、厚生労働省のHPを確認してください。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekka-ku-kansenshou28/index.html>



子宮頸がんって何？

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんのことで、日本では毎年、約1.1万人の女性が発症し、約2900人の女性が亡くなっています。

なぜ接種するの？

子宮頸がんをはじめ、多くの病気の原因となる「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染を予防することができるからです。

副反応はあるの？

HPVワクチン接種後にみられる主な副反応として、発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛みなどが報告されています。接種するかしないかを決めるのはみなさん自身です。医師や厚生労働省など公的な機関からの正しい情報をもとに、ワクチンの有効性とリスクを十分理解した上で判断してください。

男性のHPVワクチン接種の効果

HPVワクチンは女性のためだけのものだと思いませんか？国内で使用されている3種類のワクチン(2価・4価・9価)のうち、4価ワクチンについては、男性への接種が承認されています。男性がワクチンを接種することで、中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因と考えられているHPVへの感染予防が期待されています。また、男性がワクチン接種による感染予防をすることで、性交渉によるHPV感染から女性を守り、子宮頸がんの予防にもつながる可能性があります。ただし、現在男性への接種は定期接種ではないため、費用は接種者が全額負担となります。



男性は

任意接種
の対象です

○お金はかかる？

3回接種で合計5～6万円程度かかります。自治体によって接種費用の助成を行っている場合もあります。